

平成28年度第3回渋川市総合教育会議 議事録

I 開催日時

平成28年10月31日（月）午後2時55分開会 午後5時02分閉会

II 開催場所

渋川市役所本庁舎大会議室

III 出席者

【構成員】阿久津貞司市長、太田大森教育委員長、池田由美子教育委員長職務代理者、高橋秀和教育委員、新井光久教育委員、後藤晃教育長

【出席依頼による関係者】水沢淳体育協会長

【市長部局】田中副市長、佐久間総務部長、愛敬企画部長、高橋保健福祉部長、笹原企画課長、後藤スポーツ課長、荒井社会福祉課長、内田こども課長、ほか事務局職員3名

【教育委員会】田中教育部長、橋爪教育総務課長、名塚学校教育課長、綿貫学校給食課長、石田生涯学習課長、小林文化財保護課長、ほか担当職員2名

【傍聴者】 4名

IV 会議の概要

1 開会

企画課長	みなさんこんにちは、本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。 定刻少し前ではありますが、皆様お揃いでありま す ので、ただいまから平成28年度第3回渋川市総合教育会議を開催いたします。申し遅れましたが私は、司会を務めさせていただきます企画課長の笹原と申します。よろしくお願いいたします。 はじめに、阿久津市長からごあいさつを申し上げます。
------	---

2 市長あいさつ

阿久津市長	－ あいさつ －
企画課長	続きまして、太田教育委員長からごあいさつをお願い申し上げます。

3 教育委員長あいさつ

太田教育委員長	－ あいさつ －
---------	----------

4 報告事項

報告事項「平成27年度決算概要について」	
企画課長	ありがとうございました。 それでは、このあとの進行につきましては市長にお願いいたします。

阿久津市長	<p>それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>次第4の「報告事項」に入ります。</p>
阿久津市長	<p>「報告事項「平成27年度決算概要について」事務局から説明をお願いします。</p> <p>●【総務部長説明】 【資料No.1】</p>
阿久津市長	<p>事務局の説明が終わりました。平成27年度の決算については、9月定例議会において報告し、承認されております。</p> <p>今回は、特に教育関連事業を中心に説明がありましたが、ご意見やご質問がありましたら、よろしくお願ひいたします。</p>
高橋委員	<p>資料の40ページの特別支援教育支援員配置事業ですが、この事業で配置されている特別支援員は、ほとんどの小学校と半数の中学校に配置されています。この制度は、特に支援が必要な子どもへの個別の配慮や対応を可能にしており、細かい支援を行うことができることから、保護者だけでなく教職員からも感謝されています。今後も多くのニーズが高まってくるとお思いますので、教育委員会も導入を推進していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひします。</p>
学校教育課長	<p>特別支援教育支援員配置事業で配置されている特別支援員は、小学校で21名、中学校で7名となっております。この事業の目的であります様々な障害を持つ児童、生徒の学校生活上の介助や学習支援などを行うために計画的に配置を考えておりますので、よろしくお願ひします。</p>
太田委員長	<p>市長は、財政状況厳しき折、「子育てするなら渋川市」、「教育するなら渋川市」と本市を教育のまち、子育てのまちとしてアピールして、子どもたちの教育環境の整備に取り組まれておられとても感謝しております。</p> <p>教育委員会では、この10月に恒例の学校訪問を行いました。どの幼稚園も小中学校においても園長、校長のリーダーシップで、特色ある幼稚園、学校づくりに真摯に取り組んでおりました。「教育は、100年の計」と言いますが、子どもたちを健全に育成することは、日本の未来を担うことにもなります。教育には、お金も時間もかかるとおと思いますが、今後とも子どもたちの教育環境の充実のために、財政厳しいとは思いますが、お力をいただきますようお願ひいたします。</p>
阿久津市長	<p>しっかり、お伺いいたしました。</p> <p>ほかにございますか。</p> <p>無いようですので、報告事項は以上といたします。</p>

5 議題

議題(1)「貧困家庭対策の取組について」

続きまして、議題(1)「貧困家庭対策の取組について」お願ひします。担当部局から、説明をお願いします。

●【保健福祉部長説明】 【資料No.2】

●【教育部長説明】 【資料No.3】

阿久津市長

説明が終わりました。

貧困対策について、保健福祉部からは市全体としての取組、教育部からは、その中で、貧困家庭の児童・生徒対策における教育委員会の役割などの説明がありました。

これにつきまして、ご意見等ありましたらお願いします。

後藤教育長

子どもの貧困対策について発言させていただきます。近年は、子どもの貧困対策がクローズアップされており、各自治体における先進的な事例も報道されている状況です。

県内12市の教育長で構成される都市教育長協議会においても、この問題に対する各市の考え方や取り組み状況などの情報交換を行っています。

社会的背景において、日本においては子どものいる世帯の貧困率が拡大する傾向にあります。教育委員会としても、こうした社会現象に強い関心を持ち、対応を考えて行くことについて認識しています。各種統計調査では、家庭環境と子どもの学力の関係が取り上げられていますが、その一方で、経済的、社会的に不利な環境であるにもかかわらず、成果を上げている学校の取り組みも報告されています。

成果を上げている主な取り組みでは、家庭学習の指導徹底や基礎、基本の定着の重視、少人数指導などがあります。

次に、教育委員会の役割について、発言させていただきます。

公教育は、教育基本法における教育の機会均等の原則の基に経済的理由によって修学困難な者に対して、必要な奨学の措置、先ほど資料説明にありました要保護、準要保護に対する就学援助や奨学金の無利子貸与がこれにあたると思われます。しかし、日常的な学習面において、特に学習面で遅れがちな児童については、授業や放課後学習を工夫することで塾など行かなくても、希望する高校などへ進学できる力をつけさせるよう、各校において対策を講じております。

貧困対策としての学習支援は、各自治体で行われていますが、主には福祉の分野で実施されております。一方、教育委員会においても対策が行われておりますが、その取り組みは、貧困対策に特化したものでなく、対象者を限定しない形での放課後学習支援などによるものです。教育委員会での取り組みについては、全ての子どもたちを対象として取り組んでおりますが、実施上の課題としては、市の全域をカバーするなどのキャパシティの点、例えば場所、指導員数なども挙げられます。また、貧困家庭の子どもの参加が必ずしも得られないなどがあります。貧困家庭の学習支援におけるこれらの課題解決には、教育委員会と福祉部門とで役割を分担し、連携していくことが必要と認識しています。

池田委員長
職務代理者

子どもたちの将来を考えたとき、この貧困の問題は、非常に大事なことと考えています。教育長のお話にあったように教育部門から考えると、教育の均等性、公平性を考えると貧困家庭に特化することなく、一人一人の子どもたちの力を伸ばすことが大事だと考えています。

田中教育部長の説明にありました、教育の支援において学力の保障や生活習慣の確立の項目がありました。渋川市においては、今年度新規事業として、きめ細かな指導充実事業、通称「あじさいプラン」がありますが、私も学校訪問におきまして、この「あじさいプラン」の状況を各校長先生にお話を伺いました。この「あじさいプラン」は、きめ細かく、子どもたち一人一人に目を配っていて、学校ごと確実に成果が上がっていると聞いています。子どもたち一人一人に目が届くことができるこの「あじさいプラン」は必要であると考えていますので、渋川市の独自でもあるこのプランを今後も継続していただきたいと思っています。

今、教職員の多忙化が問題になっていると思います。教職員を一人でも多く配置することで、その多忙化の解消にもつながり、解消することで、より多く子どもたちに目が届けられ、学力の支援にもつながると考えていますので、このような事業を更に進めていただければと思っています。

高橋委員

資料にありましたが、経済的支援の中の学校給食費の一部公費負担について意見を述べさせていただきます。この制度が始まり、よかったと感謝しております。私が現職教師のときに、学校給食費が払えない家庭の子どもが、そのことで萎縮したりして、学校生活が送れなくなることが心配でした。該当する家庭にもいろんな事情があると思いますが、この制度が導入されて感謝している保護者もたくさんいると思いますので、このような制度は、是非継続して、家庭を助けていただきたいと思っています。

池田委員長
職務代理者

先ほど、学力の面でお話しましたが、学力の保障と心理面でのサポートも大事だと思っています。家庭環境に余裕のない保護者の生活態度や養育態度が、子どもの心理面に大きく影響しているのではないかなと考えています。私も学校教育現場にいるときに教育相談に携わりましたが、保護者の態度や考え方によって子どもたちが心理面で不安定になった場合に、学業不振に陥ったり、不登校になったり、また、非行に走ったり、生活面での問題行動につながってしまうことが、見受けられました。渋川市において、教育支援で学力面の保障も大事ですが、心理面でのサポートも非常に大事になってくるのかなと思います。教育部長の説明にもありましたが、渋川市においては、教育研究所に配置されている専門相談員の活用も考えているとのことですが、ますます心理面でのサポートは、大事になってくると思いますので、その活用を更に広げていく必要があると思います。同時に、学校においては、本日の会議資料No. 3「貧困家庭対策における教育委員会の役割及び取り組みについて」にあります「(1) 教育の支援－①教職員の資質、能力向上」ということですが、教職員の措置面において充実していただければと思います。子どもたちの近くにいるのは、先生です。子どもたちとの生活の中で、子どもたちからのSOSに気付く、先生の力が大きいと思います。これからは、心理面でサポートしていく中で、先生方のカウンセリング能力の向上、教育相談の充実についても合わせて、この貧困対策として加えていく必要があるのではないかと思います。

新井委員

貧困家庭といいますと、全体的な貧困家庭のことがクローズアップされますが、保護者の立場からの視点で捉えています。

先ほどの説明にありましたが、渋川市においては、教育研究所の専門相

談員の活用も考えているとのことですが、児童、生徒と保護者への心のケアを行っていただいていると思いますが、一步踏み込んだ取り組みがあるのではないかと思います。

そのため、恩に報いるような環境を整えていければと考えていますし、そのような取り組みができればと思っています。

具体的には、精神的な部分だけではなくて、将来への道筋に対する教育といえますか、あのとき、この支援があった、だから成長することができた、だからこの恩を、生まれ育った場所で恩返しをしようとか、そのような心の道筋を立てていくことが重要だと思っていますので、そのような取り組みができればと考えています。

このようなことできなければ、心に余裕がなくなり、家庭生活ができなくなり、身の回りのことができなくなったり、その結果、こころが荒んでいってしまっていて、不登校になってしまうなどにより、負の連鎖につながりかねないと思います。経済的な貧困同様にこころの貧困を生んでしまわないような取り組みをしていきたいと思っています。

苦しむ人がいる社会の繁栄は、虚構にすぎないと思いますし、誰もが等しく幸せを享受していくことが、本当の繁栄につながると 생각합니다。

このような状況にならないように、地域や学校や保護者同士のつながりの中で、こころの貧困を無くして行こう、また、恩に報いる教育をして行こう、こうした二つを認識して、教育委員会としても行動していきたいなと思っています。

太田委員長

先ほど、教育部長から今後の取り組みについてお話がありましたが、全ての児童生徒は、お互い尊重し合い、助け合いながら学習して将来希望が持てる充実した日々を送ることができるように、関係機関、関係団体との連携は、非常に重要だと思っています。

この教育委員の中においても、渋川市PTA連合会の副会長、保護司も2人います。これは例ですが、現在、保護司会では中学2年生を対象に全学校で交流会をしております。また、小野上中学校が合併した子持中学校では、小野上地区の保護司が集まり、2年生の生徒と話し合いを行い、「みなさんは、保護者や学校の先生だけではなくて地域の人が、みんなを見守っているんだよ」「何かあったら声をかけてねと」といった取り組みを行っております。こうした取り組みは、群馬県内では、北群馬郡、渋川市でしか行っていないと聞いています。

このように、保護司会、青少年会館、PTAや子供会、青少年育成推進員などの関係団体との連携が必要だと思っております。

阿久津市長

ありがとうございました。国は、16.3%、6人に1人の貧困家庭があると発表していますが、渋川市は、どの程度把握しているか説明をお願いします。

学校教育課長

学校教育課では、児童福祉法で規定される要保護者と準要保護者として把握しています。

平成28年8月1日時点で、要保護22人、準要保護374人、合計396人で、渋川市の児童生徒の割合では、7.69%と、統計上捉えております。

後藤教育長	<p>子どもの貧困率の算定は、要保護は算定に基準がありますが、準要保護については、自治体によって基準が異なっていますので、算定方法が違い比較はできませんが、実際には違った数値が出てくると思います。</p> <p>こどもの貧困家庭に関する数値に代わるものとして、要保護者と準要保護者の数値を説明させていただきましたので、よろしくお願いいたします。</p>
保健福祉部長	<p>先ほど、国民生活基礎調査から貧困率16.3%と説明させていただきましたが、この調査による貧困率は、収入から税金、社会保険料を差し引いた手取りの収入から世帯人数による影響を調整して算出した世帯1人あたりの所得の中央値の半分の額ということで、平成24年度の貧困の額として122万円から割り出した率ということでございますので、よろしくお願いいたします。</p>
阿久津市長	<p>太田市では、貧困家庭へ食事の提供まで行っているようです。よく夏休み後に、貧困家庭に属するの子どもが、給食が食べられないことにより、十分な食生活を送ることができず、痩せてくると聞いたことがあります、やはり貧富の差があるのかと思います。今後、このような家庭があるかどうか把握しながら、他市で行っている取り組みなどの調査、研究を視野に入れていかなければならないのかなと思っています。</p> <p>先日、新聞報道もありましたが、現在、上武大学との連携を進めています。この中で、子どもたちへの教育指導などの学習支援について考えていきたいと思っています。また、旧総合病院の跡地には、パース学園による専門学校の開校も予定されておりますので、この施設の中で、子どもたちへの支援の拠点などにも活用できればと考えていますが、具体的な話はこれからになると思われます。ともかく、どの程度の貧困家庭があるのか把握できないと効果的な支援もできないので、状況の把握により支援も必要になってくるかと考えていますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>このほか、貧困の問題とは別かもしれませんが、最近、先生方が非常に多忙になっていると聞いています。このため、学校の部活動指導などに、大学と連携したり、一般のスポーツ経験者に協力いただき、先生方の部活動に携わる時間を軽減することで、その他の学習支援に力を注いでいただき、総合的な教育環境の整備につなげていくことができればと思っています。</p> <p>市としては、教育関係に力を入れていますが、人口減少対策と併せて、少子化対策は待ったなしですので、教育、子育て、そしてスポーツにも取り組むことで、渋川市の魅力も変わってくるのかなと思います。</p> <p>今後も教育委員会との連携をとりながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
阿久津市長	<p>いかがですか、みなさんからほかのご意見はありますか。</p> <p>無いようですので、貧困家庭対策の取組についての議題は、以上とさせていただきます。</p>

6 その他

(1) 総合型スポーツクラブの設立について

阿久津市長	つづきまして「その他」に入ります。 事務局の説明をお願いします。
企画課長	前回の第2回総合教育会議におきまして、「スポーツ関連事業移管後の取組について」ご協議いただきました。 この中で、総合型スポーツクラブ設立については、市体育協会を中心として、関係団体の協力を得ながら平成29年度中の設立に向け、意見交換をしながら進めていくことを説明させていただいております。 このため、総合教育会議では、設置要綱第4条第3項の規定により、「関係者又は学識経験を有する者から、意見を聞くことができる」としておりますので、本日は、渋川市体育協会水沢会長に同席いただき、「総合型スポーツクラブの設立について」のお考えを伺いたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	各委員から「異議なしの声」
企画課長	ありがとうございます。それでは、水沢会長の席を用意しますのでしばらくお待ちください。 ●水沢会長同席 お待たせいたしました。この後の進行につきましては、引き続き市長にお願いいたします。
阿久津市長	それでは、水沢渋川市体育協会会長に同席いただき、「総合型スポーツクラブ設立について」お話を伺いたいと思っております。 よろしく申し上げます。
水沢会長	ご紹介を頂きました、渋川市体育協会長の水沢でございますよろしくお願いいたいたします。 総合型スポーツクラブの設立は、来年の5月を目途に進めておりますが、課題や調整事項がございます。現時点における体育協会としての総合型スポーツクラブにかける思いの一端を説明させていただきます。 渋川市体育協会は、平成18年に行政の合併に併せて新体育協会が発足しました。しかし、スポーツに対する考えに大きな違いがありましたが、10年かけて新しい体制の体育協会となってきました。この中で、スポーツを通して社会に貢献したいとの協会の思いがあり、市は以前から「一市民一スポーツ」を提唱しておりますが、具現化されていない中で、阿久津市長のもとでそれならば総合型スポーツクラブの設立に向け、体育協会として一致団結して協力していこうということになりました。 だれでも、どこでも、いつでもスポーツのできる環境づくりをすることで、渋川市が変わるだろうと考え、設立に向け取り組んでいきたいと考えています。 文部科学省の進めている総合型スポーツクラブは、群馬県内で50数カ所あり、当市でも1箇所、吉岡町、榛東村でもすでに立ち上がっています。

この総合型スポーツクラブは、全国各地に数百のクラブがあるようですが、実際に活動しているクラブは、ほんの一部であると聞いています。

今の総合型スポーツクラブは、学校区限定としていることから、阿久津市長のもと、渋川市独自のどこでもスポーツのできる環境を国の補助金に頼らず、新しい独自のスポーツクラブを設置し、市民に提供して市民の健康づくりをしようというのがベースになっています。

では、どのような組織にして取り組むかについては、1つ目の柱は「行政と一体になった組織づくり」です。これは、市の進めるスポーツ行政の具現化を図るために体育協会などが全面的に協力をして組織づくりをしていく、これにより、健康で明るい渋川市と健康寿命の延伸を図り、医療費の削減に結びつくものです。一市民一スポーツの確立に結びつくものです。2つ目の柱は、「スポーツを通して人材育成」です。特に青少年の健全育成と仲間づくりに力を入れていきたいと思えます。3つ目の柱は、「仲間づくりと地域コミュニティーの構築」です。スポーツを通して地域や住民、世代間の関わりをつくっていきたいと思えます。4つ目は、「人材の発掘」です。現在、定年退職を迎える年齢は60歳が社会的に多数を占める状況ですが、60歳を超えても元気な方は数多くいらっしゃいます。こうした方のうちから、クラブの中でお手伝いしてくれる方を発掘し、初心者部分の指導者として指導者資格の取得などにより、お手伝いなどしていただくような体制づくりを考えています。5つ目は、「高齢化社会を見据えた取り組み」です。スポーツとして担える分野があれば取り組んで行きたいと考えています。6つ目は、「部活動の支援」です。少子化の影響により、中学生においては学校でやりたい部活がないなどのことがあるため、学校区を越えた部活動を支援する取り組みが出来ればと考えています。

7つ目は、「高齢者のスポーツ」です。これは、医療機関などとタイアップして取り組んで行きたいと思っています。市の健康管理課などで行っている健康教室と協力して、取り組んでいければと思っています。

以上、総合型スポーツクラブの設立に向けての思いを説明させていただきましたが、多くの方のご意見やご指導いただきながら、来年5月の設立に向け取り組んでおりますので、よろしくお願いいたします。

阿久津市長

ありがとうございました。

水沢体育協会長に総合型スポーツクラブの設立に向けての、お話を伺いました。委員のみなさんから、ご意見がありましたらお願いいたします。

後藤教育長

感想と教育委員会の取り組みも含めて発言させていただきます。

多面的に説明をいただきましたが、その中で、「だれでも、どこでも、いつでもスポーツができる環境を」とのお話がありました。市民の中には、運動が苦手な方もいますので、スポーツや運動を核にすることで、良い方向性が考えられると思えます。健康づくりやコミュニティーづくりの面において、スポーツは非常に有効な要素を持っていると思えます。

その中で、「だれでも、どこでも、いつでもスポーツ」ができるようになるには、多くの市民の目が向くように、参加しやすい環境づくりが必要であると思えます。それには、年齢や体力に応じて、対応ができることが、ポイントになると思えます。

人が、幸せを感じるのは、健康であり続けるときであると思います。健康は大人になってからつくるのではなく、学齢期の児童、生徒に正しく基礎体力を確立することが、一生涯を健康に過ごすために欠かせないと思っています。このため、多くの子どもたちが運動好き、スポーツ好きになることが重要と思っていますので、その面で、全市民に対する総合型スポーツクラブの設立については、子どもだけではなく、保護者に対しても有効ではないかと考えています。そして、スポーツは、礼儀正しく、粘り強く心優しい子どもを育ててくれると思っており、期待しているところです。

阿久津市長

この事業の対象とする年齢は幅広いですが、子どもたちについては、まずは、スポーツを好きになってもらいたいと思っています。

60歳を超える年配の方には、スポーツを絆に地域に入って、指導者などとして、生きがいを感じていただいたり、健康づくりをするなど、スポーツをテーマにして、幅広い年齢の方が、地域のコミュニケーションをとるなどして、地域づくりをしていければと考えています。

総合型スポーツクラブは、スポーツだけではなく、幅広い地域づくりにも取り組むことができると思います。ただし、先ほど、水沢会長からお話がありましたように、スポーツの分野では旧渋川市と北群馬郡と勢多郡とで、それぞれのやり方が違い、10年かけて一本化し、次の段階に入れるということです。これからは、渋川市の一体化は、スポーツを通じてのコミュニケーションづくりや子どもたちの体力づくりや夢を育てるなど、「渋川市スポーツ振興地域活性化構想」に記載する取り組みがスタートできると期待しています。学校教育との連携をしっかりとしないといけないとこの取り組みも進みませんので、教育委員のみなさまにもしっかりとご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

ご意見があればお願いします。

高橋委員

先ほど、地域づくりと世代間の交流の話がありましたが、是非この取り組みを進めていただくことで、子どもの健全育成にも役立ち、指導する側についても生きがいをもって生活する渋川市民が増えると思います。教育委員として協力できることは一緒に取り組むことになると思います。よろしくお願いします。

太田委員長

総合型スポーツクラブの取り組みはよくわかりました。渋川市独自の取り組みで素晴らしいことだと思いました。

市長からお話がありましたが、学校との連携は非常に大切だと思います。

例えば、中学校の運動部活動において、赤城南中と赤城北中の野球部が合同チームを組んで県大会に出場したと聞いています。

ぜひ、総合型スポーツクラブが成功するよう期待していますし、教育委員会としても力になりたいと思っています。

学校教育課長

先ほどの中学校の部活合同チームの編成は、群馬県中学校体育連盟の「合同チーム参加規程」により、両校とも競技種目の人数が下回ることが条件になっておりますので、よろしくお願いします。

なお、今回のケースでは、赤城南中が4人で、赤城北中が8人でした。

阿久津市長	<p>総合型スポーツクラブについては、まずは、第一歩進むことが重要と思います。スポーツについては、それぞれの地区でそれぞれのやり方もあったようですが、やっと一本化したようですがどうでしょうか。</p>
水沢会長	<p>今一番の課題は、各地区の認識の違いです。例えば、旧渋川市の場合、スポーツ大会などは、自分で会費を払い、弁当持参が当たり前でしたが、お弁当のほか道具まで、市側で支給するのが当たり前という感覚が旧町村部では強い傾向にあったと思います。総合型スポーツクラブの運営にあたり、例え100円とか200円とか会費を徴収したときに、今まで無料であったのになどの意見がでてくる可能性があります。クラブを運営して行くには、自分たちで会費を出しクラブ運営していくことを前提であることを認識していただかないと、運営は困難であると思っています。</p>
阿久津市長	<p>新体育協会の体制も11年目に入りましたので、そのような部分にも踏み込んでいただき取り組んでいただくことを期待しております。</p> <p>スポーツ課は、今年度から教育委員会から市長部局に移管しました。これは、老朽化した市の総合公園の整備を進めるほか、市民ゴルフ場も11月で閉鎖し、跡地を市民スポーツ公園への検討を進めているほか、北橋の野球場整備も進めているなど財政面などのこともあり市長部局へ移管しております。</p> <p>ほかに何かございますか。</p>
水沢会長	<p>よろしいでしょうか。生活の中で、スポーツを取り入れようと考えています。日頃の生活で、足腰を鍛錬できるような取り組みをしていただければと思っています。</p>
阿久津市長	<p>ほかにございますか。</p> <p>私は、「達者で長生き100歳まで」とよく申し上げますが、それは、「身の回りのことができる100歳を目指しましょう」という意味で申し上げます。その第一歩として、総合型スポーツクラブの「誰でも、どこでも、いつでもスポーツを」との取り組みは、これに近づくことができるのかなと思っています。</p> <p>これからも体育協会やスポーツ推進委員、教育委員など関係者との連携をとりながら、総合型スポーツクラブ設立に向け、進めていきますのでご協力のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>ほかに何かございませうか。</p>
阿久津市長	<p>ないようであります。</p> <p>本日は、水沢体育協会長におかれましては、お忙しいところ出席いただきありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、本日の協議事項については、全て終了いたしました。これで議長の座を降ろさせていただきます。</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>

7 閉 会

企画課長	以上をもちまして、平成28年度第3回渋川市総合教育会議を閉会とさ
------	----------------------------------

せていただきます。

長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。